Course nu	mber	U-L	J-LAS07 10010 SJ31								
•	日本の歴史と文化 History and Culture of Japan					Instructor's name, job title, and department of affiliation		As Gr Pr Pa	Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor, YUKAWA SHIKIKO Graduate School of Global Environmental Studies Professor, TAKASHINA ERIKA  Part-time Lecturer, MORITSU TAKASHI  Part-time Lecturer, HIRAKI SHINSUKE		
Group Humanities and Social Sciences Fi					Field(	Field(Classification)			nderstanding Japan		
Language of instruction		nnese			Old group		Group A		Number of credits 2		2
Number of weekly time blocks	1 Class s		Class sty	Lecture (Face-to-fa		face cou	e course)		ar/semesters	2024 • First semester	
Days and periods	Tue.2			Target year 1s		st year	t year students		jible students	International students	

## [Overview and purpose of the course]

本授業では、古代から現代に至る日本の文化を、文学、歴史、哲学、美術の多方面から捉え、考察して行く。長い歴史を経て、日本のさまざまな文化的所産がいかに形成され、また時代の流れとともにいかに変貌を遂げてきたかを考え、理解を深めることを目的とする。

## [Course objectives]

- ・日本文化の根幹の一つを成す日本文学に造詣を深め、その特徴を理解できるようになる。上代から現代に至る主要な作品を読解しつつ、文体や思想、時代背景について理解を深める。
- ・江戸末期から明治期にかけて、日本の美術が、どのように西洋芸術から影響を受け、変化していったかを理解できるようになる。
- ・江戸期に生まれた「いき」という日本的な美の価値観に対し、近代の思想家がどのような解釈を 行ったか、またどのように自文化を捉えようとしたかについて考察し、理解を深める。

#### [Course schedule and contents)]

|授業計画は以下のとおりである。

・第1週~6週 日本の古典文学(6回)【国際高等教育院准教授 湯川 志貴子】

|『萬葉集』、『伊勢物語』、『徒然草』、『冥途の飛脚』など、上代から近世までの日本の代表的な古典を扱う。毎回、対象作品(抜粋)を読解しつつ、家族、恋愛、美などといった、普遍的なテーマに対する日本人の観念や価値観について考える。原文と現代語訳を用いながら、各作品の内容やあらすじを把握するとともに、時代背景の基礎知識を身につけることを目指す。重要な文学的概念、文学的技法や修辞法なども適宜紹介する。

第1週~2週 古代日本における通い婚 『萬葉集』を例に

第3週~4週 日本の古典に見る恋愛 『伊勢物語』の「心なさけあらむ男」

第5週 「花はさかりに、月はくまなきをのみ見るものかは」

兼好の美意識と恋愛観

第6週 『冥途の飛脚』 夫婦の情愛、親子の情愛

・第7週~10週 日本近現代文学(4回)【国際高等教育院非常勤講師 開 信介】 江戸時代が終わり、明治に入った日本は、急速な勢いのもとに社会のさまざまな分野で西洋化を

| 江戸時代が終わり、明治に入った日本は、急速な勢いのもとに社会のさまさまな分野で西洋化を 進める。伝統的な和漢の教養に基づいていた「文学」という概念もこのような流れのもとで変わっ

Continue to 日本の歴史と文化(2)

## 日本の歴史と文化(2)

ていく。

しかし、西洋の文学思潮に学んだ日本近代文学において、長らく指導的なジャンルであったのは、日本独自の小説ジャンルとされる私小説であった。私小説とは、作者が自分自身の心(人格)を、できる限り虚構を交えずに作品で表現しようとする小説ジャンルをいう。この授業では、昭和初期までの日本近代文学史の流れを、私小説の起源である自然主義とそれに対抗する反自然主義を軸として学び、私小説こそが最高の芸術とされた文学史的事実を通して、日本文化の特質を考えてみたい。第1~3週は、鍵となる作品の抜粋および時代背景を参照しながら授業を進め、第4週では京都を舞台にした私小説である梶井基次郎『檸檬』を読解する。

第1週…近代日本文学の発生と自然主義 二葉亭四迷『浮雲』と田山花袋『蒲団』

第2週…反自然主義の流れ 夏目漱石『それから』と谷崎潤一郎『刺青』

第3週...私小説と大衆文学 志賀直哉『暗夜行路』と中里介山『大菩薩峠』

第4週...梶井基次郎『檸檬』を読む 幻想する「私」と京都

・第11週~12週 近世・近代美術史(2回)【人文科学研究所准教授 高階 絵里加】 日本の近代美術と西洋:19世紀半ば、長い鎖国ののち西洋に向けて大きく門戸を開いた日本では、 あらゆる分野に西洋化の波が押し寄せたが、美術もまた例外ではなかった。江戸末期から明治期に 西洋芸術の概念や技法にであい、大きく変化した日本の美術について、絵画を中心にスライドで具 体的な作品を見ながら考える。

・第13週~14週 近代日本の美意識(2回)【国際高等教育院非常勤講師 守津 隆】本講義では、美的感覚という一側面をとりあげ、日本的な美の価値観について、近代日本の哲学者である九鬼周造がどのような解釈をおこなったかを見て行く。日本的な美の価値基準といっても、「あはれ」や「わび、さび」などを始めとして非常に多いが、九鬼が注目したのは江戸期に生まれた価値である「いき」である。そこでまず、「いき」という独特な美的価値観を理解していくために、「いき」な事象の実例を見て行くことから始め、次に「いき」というものを九鬼がどのように扱おうとしたか、その方法を確認していく。その上で、じっさいに九鬼の「いき」の解釈について、その内容を紹介していく。これらを通じて、近代日本の思想家がどのように自文化を理解しようとしたか、その理解の仕方の特質は何か、考えていくことを目指す。

### [Course requirements]

日本語・日本文化研修留学生専用科目

### [Evaluation methods and policy]

「参加態度」30%、「課題」20%、「期末試験」50%で評価する。

#### [Textbooks]

資料を配布する。

## [References, etc.]

( References, etc. )

Introduced during class

# [Study outside of class (preparation and review)]

事前に配布した資料は必ず読んでくること。

Continue to 日本の歴史と文化(3)

日本の歴史と文化(3)
[Other information (office hours, etc.)]
・
用してください。